

運動療法学

[講義・演習] 第2学年 後期 必修 1単位

《履修上の留意事項》実技を伴うので、適切な服装で参加すること

《担当者名》 山根裕司 ya_yuji_426@hoku-iryu-u.ac.jp 佐々木祐二 中村宅雄

【概要】

運動療法学 で学んだ運動療法の基礎的理論をもとに、基本的手技である関節可動域運動、ストレッチ、筋力増強運動、協調性運動 バランス運動などについて演習を通じて学修する。

【学修目標】

一般目標

運動療法の基本的手技が行えるようになるために、運動療法学領域の知識、技術を身につける。

行動目標

1. 運動療法の特徴や適応、禁忌などについて説明できる。
2. 運動療法の介入効果に対するエビデンスや運動指標の基準値について説明できる。
3. 関節可動域運動、ストレッチ、筋力増強運動、協調性運動 バランス運動などの基本的な運動療法の手技について理解し、実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	運動療法のエビデンス リスク管理	運動療法の介入効果に対するエビデンスを学ぶ 運動療法に必要な運動指標や基準値を学ぶ 運動療法を行う上で注意すべき症状や所見について学ぶ	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
2) 3	基本的手技 関節可動域運動	関節可動域運動の手技について学ぶ	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
4) 5	基本的手技 ストレッチ	ストレッチの手技について学ぶ	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
6	総復習	これまでに行った基本的手技について総復習を行う	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
7) 9	基本的手技 筋力増強運動	筋力増強運動の手技について学ぶ	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
10	協調性運動 バランス運動	協調性運動 バランス運動の手技について学ぶ	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
11	総復習	これまでに行った基本的手技について総復習を行う	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
12) 13	基本動作獲得に向けた運動療法	寝返り、立ち上がりなどの基本動作能力の獲得を目的とした運動療法の実際について学ぶ	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
14	歩行能力獲得に向けた運動療法	歩行能力獲得を目的とした運動療法の実際について学ぶ	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄
15	運動学習	運動療法における運動学習の位置付けについて学ぶ	山根裕司 佐々木祐二 中村宅雄

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

実技試験100%

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。

【教科書】

対馬栄輝 編 「Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学」 メジカルビュー社 2020年

【参考書】

松永篤彦 編 「運動療法エビデンスレビュー」 文光堂 2018年

高橋仁美 編 「即解 こんなときどうする！ リハビリテーションスタッフのためのトラブルシューティング」 中山書店 2011年

【学修の準備】

講義に先立ち、運動療法 で実施した内容のうち、授業内容に関連する回について講義資料や教科書を読むなどの予習をすること。（40分以上）

講義内容の復習および実技練習を行い、知識と技術を定着させること。（60分以上）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を習得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

山根裕司（理学療法士） 佐々木祐二（理学療法士） 中村宅雄（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における理学療法士としての実務経験に基づき、実践的な講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している